

『まちづくり大山』 大山診療所を核とした地域づくりを

大山地区では現在、約1800名の住民が大山の恵みを受け、助け合いながら暮らしています。地域には、医療機関（大山診療所）、教育機関（大山保育所・大山小学校）、金融機関（J・A・郵便局）、買い物する場としてコンビニがあります。どの施設も暮らしていくには欠かせないものですが、特に、大山診療所は地域住民にとって重要な施設です。

大山診療所は昭和14年に大山村営



▲健康を語る会を開きました

診療所として開設され、以来80年にわたり、地域住民の医療と健康を守ってきました。しかしながら平成18年に常勤医が定年退職され、以後固定医が確保できず、鳥取大学医学部から医師の派遣を受けて運営されてきました。

平成26年頃から、町議会や地域などを中心に、赤字が続く大山診療所の存続を巡って議論が交わされはじめました。

診療所の存続を願う「まちづくり大山」と区長会は、存続に向けた署名活動を行い、約1200筆の署名を集めました。平成27年3月、町長と町議会に存続に向けた請願書を提出し、結果、当面の危機は回避されました。このことをきっかけに「まちづくり大山」では、改めて大山地区から医療機関がなくなるといふことは、地域崩壊に繋がることであるとの危機意識をもち、診療所存続について自分たちで何かできることがないか検討を重ねました。

平成28年に『健康フェスタ』を開催し、骨密度測定・血圧測定・健康相談を行い、健康に関する意識向上

と診療所の利用を訴えました。翌年には、鳥取大学医学部と連携し、『健康を語る会』を3回シリーズで開催しました。「病気になるらないために」、「病気になるたら」、「家庭での治療と介護について」をテーマに学習し、参加者の皆さんから好評をいただきました。

平成30年も鳥取大学医学部と連携し、各集落に向いて「自分らしく暮らし続けるために・医療と介護を考える」をテーマに、総合診療医の朴先生（現在診療所所長）の講話と住民参加のワークショップを5集落で開催し、自分たちの健康や暮らしについて、地域の課題等意見交換をしました。先生と身近に話せることもあり、大変有意義でした。また、それぞれの集落の良い所や課題等を知ることでもできました。

このような取り組みを行う中で、平成31年4月から大山診療所は、『鳥取大学家庭医療教育ステーション』を併設し、引き続き鳥取大学から総合診療医の朴先生に赴任いただいています。医学生が地域医療について学ぶ機能が加わったことで、従来の地域医療の拠点機能だけでなく、新たに、小児から大人まで診ていただける体制が整えられました。今後は、大山診療所が身近な医療



▲今在家で行われた健康講座

機関（かかりつけ医）として、また、地域医療の拠点として機能するためにも、私たちは、大山診療所・鳥取大学医学部と連携した取り組みを継続し、診療所・住民・行政による意見交換を行い、診療所の利用を考え、皆が健康で安心して暮らせる地域づくりを目指します。

◆問い合わせ先

まちづくり大山事務局

☎0859・53・8139